

ぼうしの詩人賞

あつまれ！ 未来の中也たち！



ぼうしの詩人賞

「ぼうしの詩人賞」は山口市内の小学生・中学生を対象とした創作詩のコンクールです。

市内の小中学生が「中原中也」や「詩」に触れる機会を作るためにはじめに2016年に創設、帽子をかぶった中也の写真のイメージから「ぼうしの詩人賞」と名付けました。

表彰にあたって、入選者による自作朗読の場を設けているのも、中也が朗読を好み、声を通じて詩作を人々に伝えていたことにちなんでいます。

第8回

応募総数 268 篇

応募校数 15 校

表彰式 2023年12月9日（土）

於 クリエイティブ・スペース

赤れんが

第8回目となりました「ぼうしの詩人賞」、応募総数は268点（小学校38、中学校230）。応募数もさることながらすばらしい作品の数々でした。今年は具体的事物を対象とした詩から心の内面に迫る詩など、小学生から中学生への成長の感じられる詩に接し、ほほえましく読みましたが、どれも詩心満載で、審査は難航しました。

その中でも審査員の満票を得て、最優秀賞である「ぼうしの詩人賞」に輝いた大殿中学校3年の石田雅道さんの「幻想の陰」は、言葉をとおして、解説困難な自分の内面と向き合おうとする姿勢が感じられ、表現も工夫されておりながらも簡潔だと、絶賛でした。

優秀賞は4点。湯田小学校3年 田淵陽仁さんの「山はまほうつかいだ」は、山登りのきつさ、登り切った爽快感が五感をとおした表現となっており好評でした。大殿小学校6年 中内咲耶さんの「くもりの日」は、“くもり”の日の変化を楽しみながら太陽を希求する気持ちをまとまりのある詩として表現しています。小郡中学校1年 浅野陽佑さんの「水面」は、僕が見た魚の世界と魚から見た人間社会を対比的に描写し、社会批評ともなっています。山口大学教育学部附属山口中学校3年 有吉みなみさんの「海」は、優れた表現力で満たされ、最終行も＜もう青くはなかった＞と余韻を残し、読み手の想像を膨らませます。

館長賞は6点でした。いずれも作者の主張がよく伝わり、優秀賞にも劣らぬものばかりでした。小郡南小学校3年 清水秀剛さんの「ぼくの妹」は、妹の歩き方を擬態語＜とこここ＞を駆使してかわいらしさと家族愛を表現しています。秋穂小学校5年 柴田陽々登さんの「もみじ」は、言葉遊びの要素を織り込みながら視点の移動や色合いの変化を想像させ異色でした。大内南小学校6年

田中莉咲さんの「今はまだ」は、大人への入り口をほうふつとさせる詩で、心と体の乖離をシンプルに表現しています。小郡中学校1年 加藤千織さんの「楽譜がおわる」は、演奏会での演奏の終了時の一瞬の静寂と自らの余韻を安堵感と達成感で＜胸をおどらせる＞と表現した秀作です。小郡中学校1年 庄司ルカイヤさんの「君と僕だけの秘密」は、現実から空想の世界へと自然に誘う詩的センスを感じさせます。湯田中学校1年 又野衣織さんの「無花果」は、いちじくを介して13歳の私の心象風景を描いたもので特別な存在感を示しています。

詩の題材は無限です。入賞作品から詩のヒントを学び、あなたの見方・感じ方によって言葉を紡いで自分の内面を見てみましょう。詩は人の心を癒し和まし、時に開放させてくれます。多くの皆さんのが詩作に挑み、応募してくれることを願っています。来年はどんな素敵なかな詩と出会えるのかな。今からわくわくです。

審査員

- 上田 保明（山口学芸大学特命教授・元小学校校長）
桑原 滝弥（詩人）
佐伯 玲子（元山口県立大学非常勤講師・元中学校校長）
福田 百合子（中原中也記念館名譽館長）
中原 豊（中原中也記念館館長）

ぼうしの詩人賞・最優秀賞

入選作品

「幻想の陰」

石田 雅道さん（大殿中学校3年）

優秀賞

「山はまほうつかいだ」

田淵 陽仁さん（湯田小学校3年）

「くもりの日」

中内 咲耶さん（大殿小学校6年）

「水面」

浅野 陽佑さん（小郡中学校1年）

「海」

有吉 みなみさん（附属山口中学校3年）

館長賞

「ぼくの妹」

清水 秀剛さん（小郡南小学校3年）

「もみじ」

柴田 陽々登さん（秋穂小学校5年）

「今はまだ」

田中 莉咲さん（大内南小学校6年）

「楽譜がおわる」

加藤 千織さん（小郡中学校1年）

「君と僕だけの秘密」

庄司 ルカイヤさん（小郡中学校1年）

「無花果」

又野 衣織さん（湯田中学校1年）

秀 作

秀 作

小郡中学校	1年	生駒 光理	「まっ白な月」	擬音語を効果的に使った点
湯田小学校	1年	大浦 咲継	「たのしいなつやすみ」	小学校で初めて経験した夏休みを描いた点
湯田中学校	1年	川崎 挺	「ワールドワイドごぼう」	思わず笑みのこぼれる全世界のごぼうたちに向けたメッセージ
小郡中学校	1年	草本 結希	「笑顔とおばあちゃん」	リフレインを効果的に使っておばあちゃんの死を表現
湯田中学校	1年	住田 隆起	「ピッチャー」	擬音語と外来語のカタカナ表記が心地よく響き合っている
小郡中学校	1年	辻 一慧	「人形の友達」	過去を感傷的に想起しながらも前を向こうとする表現
小郡中学校	1年	濱村 颯	「どこにでもあるしわくちゃなプリント」	プリントに生命を見出した視点
良城小学校	2年	藤田 凰一朗	「ものと電話できたらいいのにな」	遺失物に電話して発見したいという発想がおもしろい
大殿中学校	3年	藤野 寛也	「兄との再会の日」	兄の身長を追い越して改めて気づいた兄弟愛を3行の5連で表現
山口大学教育学部附属 山口中学校	2年	本園 貴彩	「生きる」	線路に咲くタンポポのたくましい姿に自分の生き方を結び付けた